



確かな学力の向上をめざして【1月】

■今後の英語教育の充実に向けて



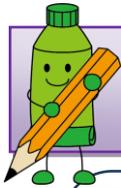
小学校の英語教育充実のために検討されていること 【論点整理より】

8月に、中央教育審議会教育課程特別部会より「論点整理」が出されました。その中から小学校の外国語の学習に関する内容を紹介します。（→詳しくは文部科学省HPで）

【各学校段階の基本的な枠組みと、学校段階間の接続】

小学校3・4年生	小学校5・6年生
○「外国語活動」として実施	○「教科」として系統的に指導
○外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高める。	○語彙や表現を繰り返し活用した言語活動から、自分の考えや気持ちなどを、聞き手を意識しながら伝えようとするコミュニケーション活動までの総合的な活動を展開し、定着を図る。
○「聞く」「話す」の2技能中心に活動する。	○「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を扱う。知識・技能を学ぶ。
35時間程度	70時間程度

◆時間数、評価等については、平成28年当初を目途に一定の結論が出る予定です。



大事にしたいのは、今の「小学校外国語活動」と「中学校英語」の授業を充実させること

【小学校外国語活動では】

- ①安心感のある環境づくり
(間違えても大丈夫 認め合える人間関係)
- ②コミュニケーションの必然性のある活動の工夫
- ③1単元で授業設計
目標と活動、指導と評価の一体化

小
中
連
携

【中学校英語では】

- ①小学校、中学校、高等学校と、学びの連続性を意識した授業づくり
- ②互いの考えや気持ちなどを英語で伝え合う対話的な言語活動を重視した授業の充実
- ③CAN-DOリストの活用

小学校、中学校の教諭が、互いに外国語活動、英語の授業を見合い、授業改善を進める。

第2回外国語活動・外国語担当者研修会を実施しています。9～12月に実施した担当者研修会の様子を中部教育局のホームページで紹介しています。ご覧ください。



新学習指導要領全面実施が平成32年です。先行実施までは、あと2年あまりとなりました。各校で、指導力向上に向けた取組を考えられていると思います。

今の外国語活動や中学校英語の授業を充実させることや、教師自身の英語のスキルアップすることが求められています。特に、小学校においては、中核教員を中心に校内で研修する機会を持つなど、少しずつ準備を進めていきましょう。

